

◎第4回理事会(37.9.21)出席者:藤井会長,山本・岡本副会長,ほか理事9名。協議事項:1)定款改正の要点について。2)土木賞について。3)吉田賞について。4)支部賛助員の取り扱いについて。5)異形丸鋼の試験について。6)新丹那トンネル見学会開催について。7)委員委嘱について・a. 吉田賞委員会委員を次のとおり決定した。

昭和37年度吉田賞委員会構成

- 委員 綾 亀一(大同コンクリート工業)
- 〃 新井 義 輔(電源開発)
- 〃 荒 木 謙 一(徳島大学)
- 〃 内 山 実(中央大学)
- 〃 小 野 竹之助(日本大学)
- 〃 生 出 久 也(徳島建設)
- 〃 大 石 重 成(国 鉄)
- 〃 岡 田 清(京都大学)
- 〃 岡 本 舜 三*(東京大学)
- 〃 奥 田 秋 夫(都立大学)
- 〃 加賀美 一二三(山口大学)
- 〃 河 北 正 治*(土 研)
- 〃 河 野 通 之*(国 鉄)
- 〃 国 分 正 胤(東京大学)
- 〃 後 藤 幸 正(東北大学)
- 〃 島 村 哲 夫(八幡製鉄)
- 〃 田 中 太 郎(日本セメント技術協会)
- 〃 田 原 保 二(日本構造橋梁)
- 〃 谷 藤 正 三(建設省)
- 〃 友 永 和 夫(国 鉄)
- 〃 永 田 年(東京電力)
- 〃 仁 杉 巖(国 鉄)
- 〃 沼 田 正 矩(早稲田大学)
- 〃 比 田 正(運輸省)
- 〃 藤 井 松太郎*(日本交通技術)
- 〃 丸 安 隆 和(東京大学)
- 〃 水 野 高 明(九州大学)
- 〃 八十島 義之助*(東京大学)
- 〃 横 田 周 平(清水建設)
- 〃 横 道 英 雄(北海道大学)
- 幹 事 菅 原 操*(国 鉄)
- 〃 西 片 守*(建設省)
- 〃 西 沢 紀 昭(電 研)
- 〃 百 島 祐 信*(鹿島建設)

*印は新委員

b. 日本学術会議の「地震工学研究連絡委員会」委員推薦について

- 岡 本 舜 三(東京大学教授)
- 友 永 和 夫(国鉄構造物設計事務所長)

8) 次回理事会の件。報告事項:1) 会員入退会について。2) 会計報告承認。3) 刊行物申込一覧表承認。3) 支部長, 常議員, 委員会委員および幹事の委嘱について

a. 中国四国支部

- 支部長 山 本 三 男(中国電力KK広島支店長)
- 常議員 樺 島 正 二(建設省四国地方建設局長)
- 〃 内 林 達 一(KK水野組専務取締役)

b. 中部支部

- 常議員 山 田 敬 二(国鉄本社に転出のため)
- 〃 尾 崎 寿(国鉄中部支社調査役に交代)

c. 会誌編集委員会中国四国地区委員

長 尾 満(建設省中国地方建設局企画室長)

委員の交代および追加

d. トンネル工学委員会

- 三谷委員の後任に玉田茂芳(建設省大宮工事事務所長)
- 小針委員の後任に渡部 雅(電源開発)
- 牧野委員の後任に宮城好弘(農 林 省)
- 高 橋 彦 治(国鉄鉄研) 新任
- 芥 川 真 如(土 研) *
- 今 田 徹(〃) *

e. 土木賞委員会

- 藤 井 委 員 を 委 員 長 に
 - 岡本(舜)委員を副委員長に
 - 国 分 委 員 を 学 術 賞 主 査 に
 - 高 畑 委 員 を 技 術 賞 主 査 に
 - 安 芸 周 一(電 研)
 - 堀 井 健 一 郎(早 大)
 - 新 谷 洋 二(建設省)
 - 野 口 功(国 鉄)
 - の4氏を幹事に委嘱
- } それぞれ選定

f. 耐震工学委員会

- 谷藤委員の後任に河北正治氏(土 研)
- 佐藤委員の後任に宮崎茂一氏(運輸省)
- 別に山本隆一氏(港湾技研)を追加

◎各種委員会

(1) 会誌講座打合せ(37.8.24)出席者:鈴木雅次氏, ほか9名。議事:1) 新規講座につき執筆者間の調整を行なった。2) 執筆項目 および執筆担当者 の決定。3) 原稿締切の確認。4) その他。

(2) 会誌展望記事編集打合せ(37.8.28)出席者:堺副委員長, ほか10名。議事:1) 1962年の回顧と展望を会誌12月号に特集することとし, その執筆項目, および執筆担当委員の決定。2) その他。

(3) 昭和37年度第1回合成桁鉄道橋設計示方書研究委員会幹事会(37.8.31)出席者:成瀬副委員長, ほか委員および幹事8名。議事:第1回委員会の資料調整を行なった。

(4) 第1回合成桁鉄道橋設計示方書委員会(37.8.31)出席者:成瀬副委員長, ほか委員および幹事17名。議事:1) 合成桁ジベルの疲労試験結果および計画の検討。2) 合成桁鉄道橋設計示方書の第2読会。3) その他。

(5) 第1回耐震構造設計研究委員会(37.9.4)出席者:岡本委員長, ほか委員13名および久保幹事長, ほか幹事18名。議事:1) 挨拶。2) 委員および幹事紹介。3) 既往の研究経過について。4) 今年度の研究計画について。5) 委員会, 幹事会運営方針について。6) 自由討議。

(6) 本州四国連絡橋技術調査委員会上部構造に関する専門部会幹事会打合せ(37.9.5)出席者:国鉄側幹事3名, 建設省側幹事4名。議事:1) 9月12日開催の第1回上部構造に関する専門部会提出資料の調整を行なった。

(7) 第2回論文集各部委員会(37.9.5)出席者:第1部会・北川部会長, ほか委員6名, 第2部会・吉川部会長, ほか委員7名, 第3部会・山川部会長, ほか委員6名, 第4部会・丸安部会長・ほか委員5名。議事:1) 前回部会長報告。2) 各部会ごとに審査中原稿の審査報告。3) 新規受付原稿の審査委員の決定。4) 次回委員会の件。5) その他。

(8) トンネル工学委員会(37.9.6)出席者:藤井委員長, ほか委員17名。議事:1) 委員の交代および追加委嘱について。2) トンネル工学標準示方書作成について・調査小委員会(宮崎委員), 設計小委員会(伊吹山委員), 施工小委員会(住友

主査)よりそれぞれの小委員会作成の目次案につき説明。示方書の形式、作成の方法等につき審議を行なった。本年12月頃までに草案を作る目安で各小委員会にて検討して行くことに決定。3)見学会の実施について・11月10日(土)鋼管支保工および鋼管、ルーフィングサポートおよび温泉余土の現場を見学することにした。4)委員会運営資金について。

(9) 第4回文献調査委員会(37.9.7)出席者:千秋委員長,ほか委員および幹事12名。議事:1)47巻11号登載抄録の決定。2)学会へ備付けの新規購入外国雑誌について委員会の要請した10種に学会側で必要なものを追加して学会で購入することにした。3)官庁・大学・業界・研究所などの外国雑誌備付けリスト調査についてその回答結果を整理し、今後の取り扱いについて協議した。4)国内大学紀要作成者についてその回答結果を調べ今後の協力方をお願いすることにした。5)分類目録の一部変更について。6)文献抄録執筆要項について。7)その他。

(10) 第4回会誌編集委員会(37.9.7)出席者:八十島・堺正副委員長,ほか委員15名。議事:1)投稿原稿の審査報告および新規受付原稿審査委員の決定。2)依頼原稿について。3)各種打合せ・小委員会報告。4)学会誌原稿の制限ページ数と著者への徹底方法。5)学会誌論文紹介欄の割当ページ数について。6)48巻1号よりの編集方針。7)その他。

(11) 地震工学国内シンポジウム運営委員会(37.9.8)出席者:岡本委員長,ほか委員10名。議事:1)論文印刷について。2)プロシーディングスについて。3)参加費について。4)司会者について。5)講演時間について。6)プログラムについて。7)ポスターについて。8)参加募集広告について。9)外国への通知について。10)寄付金について。

(12) 土木賞委員会打合せ(37.9.10)出席者:星楚前副委員長,岡本前主査,千秋,山本の両前幹事。議事:第1回土木賞委員会の資料調整を行なった。

(13) 第1回土木賞委員会(37.9.10)出席者:藤井委員,ほか委員10名,星楚前副委員長。議事:1)委員長,副委員長,学術賞主査,技術賞主査の選挙。互選の結果下記のとおり決定した。

委員長 藤井 松太郎 学術賞主査 国分 正胤
副委員長 岡本 舜三 技術賞主査 高畑 政信

2)幹事の人選について,国分,高畑両主査相談の結果次のとおり決定した。

安芸 周一(電研) 新谷 洋二(建設省)
堀井 健一郎(早大) 野口 功(国鉄)

3)規約改正について。4)昭和37年度土木賞候補募集要項について。5)その他。

(14) 本州四国連絡橋技術調査委員会基礎に関する専門部会幹事会(37.9.11)出席者:建設省側幹事6名,国鉄側幹事6名。議事:次回専門部会にかけ資料の検討を行なった。

(15) 本州四国連絡橋技術調査委員会上部構造に関する専門部会(37.9.21)出席者:青木部会長,ほか委員15名,建設省側幹事7名,国鉄側幹事7名。議事:1)末森専務理事経過報告。2)青木部会長挨拶。3)委員紹介。4)専門部会内規の決定。5)技術調査経過報告。6)部会の運営方針について。7)審議事項①研究計画,②風洞および振動台の計画,③設計示方書(案)について。

(16) RC工場製品分科会(37.9.12)出席者:杉木主査,ほか委員および幹事10名。議事:1)第5回工場製品分科会議事録の承認。2)資料—15“工場製品の条項改訂案”について・粗骨材の最大寸法,養生,かぶり,製品の試験などの条項について審議。特にかぶりの項は各製品協会より提出された資料—17,

18,19および20により実際の値の説明があり,これを参考にして検討した。3)設計の項目については,次回に検討することになった。

(17) 第5回会誌編集委員会(37.9.14)出席者:八十島,堺正副委員長,新谷委員。議事:1)47巻10号ニュース・口絵写真の決定。2)47巻10号の体裁・その他について。3)47巻11号の編集方針について。4)その他。

(18) 第2回論文集部会長会(37.9.14)出席者:丸安委員長,堺会誌委員会副委員長,吉川,北川部会長,ほか委員および幹事5名。議事:1)各部委員会報告。2)各部会原稿処理状況の確認。3)論文集第87号,および第88号登載原稿の決定。4)学会誌に登載している論文紹介のページ数について会誌委員会側よりの要望につき協議した。5)その他。

(19) 第59回耐震工学委員会(37.9.17)出席者:那須委員長,ほか委員10名。議事:1)地震工学トレーニングセンターについて。2)国際組織について。3)地震工学国内シンポジウムについて。4)国鉄委託耐震構造設計研究委員会について。5)委員交代について。6)北米濃地震報告書について。7)朝日賞について。8)その他。

◎その他

○第11回関東東地区学生諸君のための映画会(37.9.15)

参加者:95名 上映映画:(1)海流 (2)モノレール
(3)地図 (4)奥只見ダム

○Daily 教授 講演会ならびに歓迎会

マサチューセッツ工科大学(M.I.T)教授 J. W. Daily 博士が,仙台で開催された国際水理学会(I.A.H.R)のキャピテーションおよび水力機械シンポジウムの議長として来日された機会に,土木学会主催による講演会ならびに歓迎晩餐会を下記のとおり開催した。

日時:1962年8月24日17時,場所:学士会館
講演会においては,Daily教授が約1時間にわたり,“ペーパーパルプおよび固体粒子の懸濁せる乱流について”と題する講演を行なわれ,ひきつづき出席者10名の質問に熱心に答えられた。

○Escande 教授 講演会ならびに歓迎会

フランス学士院会員,ツールーズ大学教授 L. Escande 教授がフランス外務省から日仏工業技術交流の公式使命をおびて来日された機会に,土木学会は日仏工業技術会と共催で,下記のとおり講演会を開催した。

日時:1962年9月13日 13時30分~16時

場所:日本化学会講堂

演題:(1)ダム洪水吐の水理設計について

(2)ダム,取水口などの大きな水理構造物における境界層吸込みによる流況の変化について

聴講者はおおよそ120名におよび,熱心な質問に対して Escande 教授は懇切に回答指導され,盛会であった。

また Escande 教授の来日を歓迎して,土木学会会長主催のレセプションが9月1日午後6時よりホテル国際観光において開催され,藤井会長,伊藤水理委員会委員長ほか,有志,関係者13名が出席した。

○Grzywienski 教授 講演会ならびに歓迎会

ウィーン工科大学教授,水工学研究所長, A. Grzywienski 博士が来日された機会に,水理委員会主催による講演会ならびに歓迎晩餐会を下記のとおり開催した。

日時:1962年9月18日 17時

場所:学士会館

- 講演題目：(1) 各種大型ゲートの水理実験と設計
 (2) 高圧放水管のキャピテーション対策上の設計
 (3) 大ダムの破壊により生ずる洪水波

講演会にひきつづき開かれた歓迎パーティーに、同教授は夫人同伴で出席されたが、この日は奇しくも同教授夫妻の結婚41周年記念日に当る由で、伊藤水理委員会委員長はじめ出席者12名より心からお祝いを申しのべた。

支 部 だ よ り

◎北海道支部

(1) 第2回見学会 (37.9.28~29)

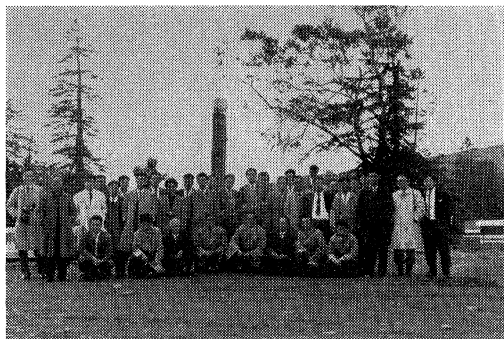
第2回見学会は本部と共催で特に今回は本部から藤井会長、岡本副会長、末森専務理事、堀内事業課長を迎え総員41名は強風下ではあったが元氣よく札幌を出發した。快適な一級国道36号線(札幌-室蘭)通称弾丸道路を突走り、途中美美的試験道路(東上路盤の試験用道路、延長約1.2km)を過ぎて第1の目的地苫小牧に着く。早速市役所で田中苫小牧港建設事務所長に苫小牧港の説明を承わる。

苫小牧港は昭和26年から工業港として北海道開発局で計画を立て本格的掘込港として直轄工事で着々施工しつつあるがその規模は外港部に東西両防波堤を約1km出し航路水深14m、巾300mとし、内港部は全部掘込式とし、商港区水面積118万 m^2 、工業港区水面積174万 m^2 、水深9~14m、巾300~400m、延長5200mとしさらに副水路を計画している。このほか漁港区、木材港区をそれぞれ有し総事業費234億円の巨費を予定している大工事である。37年度までの投入予算額は41億円程度であるがさらに最近開発会社もでき官民合せて積極的に工事を進め昭和38年待望の第1船が入る予定とのことである。説明後市役所ご厚意の昼食をとり現場に入り、関港湾部長、田中所長、石田技官が説明に当られた。見学約30分で苫小牧港を出發、苫小牧から当地域直轄事業担当の室蘭開発建設部小林道路課長がバスに同乗され、これより続く国道36号線、37号線に(室蘭-長万部)の説明を車中でして載く。この間、時間の余裕があったので同乗の高橋会員の紹介で錦岡カントリークラブを見学、土木技術の一面としての雄大なコースを見て会員一同も一寸一息ついた。さらに車で1時間雑査する室蘭市内に入り測量山へ登り、室蘭市および港を一望の下に見渡し、室蘭市吉田施設課長より室蘭港の概要の説明をきいたのち、建設部でチャーターして載いた観光船に乗り港内を一巡して施工中の施設や完成したセル型式日本埠頭、プレバクト工法の北日本埠頭等を建設部の小野技術長、財木築港課長、白崎室蘭港修築事業所長に御説明を戴いて見学した。上陸したとたんバスが埋立地の軟弱地盤にひっかかって約1時間ほど遅れ途中の見学予定地を省略して洞爺湖の宿舎観光ホテルに到着、一風呂浴びて一同大広間に集り会長のお話を承わったのちなごやかな一夕を送った。

29日は前日と変わり秋晴れの絶好の見学会日より、9時に宿舎を出發世紀の奇蹟といわれる昭和新山を見て、国道37号線に戻る。ここで高田豊浦道路改良事業所長が同乗され37号線の説明をして載くが、工事中の各所の道路工事が1カ所10万 m^3 、20万 m^3 というアースダムのごとき土工に驚く。見学の区間約28km中トンネル8カ所、橋梁3カ所という難工事で豊浦トンネル(L=300m)でも軟弱地質で苦勞されていた。

豊浦を發って次の予定地喜茂別町に着き町役場で町の御厚意による昼食を戴いたが、これが北海道の野趣あふれた馬鈴薯、かぼちゃ、チーズ、牛乳、ビール、とうきびで会長始め一同大喜び一齊に平らげる。その後クレードル興業の缶詰工場を見学し、次の予定地中山峠に向った。バスは二級国道札幌-虻田線を走って有名な中山峠にかかる。ここは北海道でも随一の峠であり曲線箇所370カ所という難所であったが、現在全面的に改良工事が進み峠より虻田側はほぼ改良が完了し曲線部は20と完全に面目を一新していた。ここでは齊藤慎知安所長に峠の所で説明をして戴いたがすでに峠ははだ寒く冬近しを思わせぞ富士羊蹄山をバックに一同記念撮影を行ない峠を下りた。

中山峠にて記念撮影



途中道路改良工事やディビダーク工法による盤の沢橋(L=140m)を見ながら札幌に入り大通公園で2日にわたる見学会も解散となった。

なお今回の見学会には、苫小牧市、室蘭市喜茂別町、室蘭開発建設部、東京コンサルタントKK等の方々に特別の御配慮を戴きましたので関係各位に紙上より厚くお礼申し上げます。

(2) 本部・支部役員懇談会 (37.9.29, 山形屋)

見学会に引続き、本部役員と支部役員の懇談会を行なった。議事は主として支部発展対策、本部・支部間の連絡等で談論風発有意義に終了した。

出席者：本部・藤井、岡本正副会長、末森専務、堀内事業課長、支部・猪瀬支部長、栗林、大橋、小原、土志田、高橋、横達の各商議員、館谷、森、山本の各幹事。

(3) 本部・支部事務局打合せ (37.9.30, 山形屋)

役員懇談会に引続き、帰京当日の末森専務理事、堀内課長と事務局打合わせを行なった。主として支部発展対策、事務取扱い等の問題について種々話し合った。

出席者：本部・末森専務理事、堀内事業課長、支部・栗林商議員(幹事長代理)、館谷幹事、山本幹事。

◎東北支部

(1) コンクリート講習会 (37.8.21~23)

主催：土木学会東北支部・日本セメント技術協会

後援：建設省

場所：仙台市公会堂 参加人員：649名

講師と題目

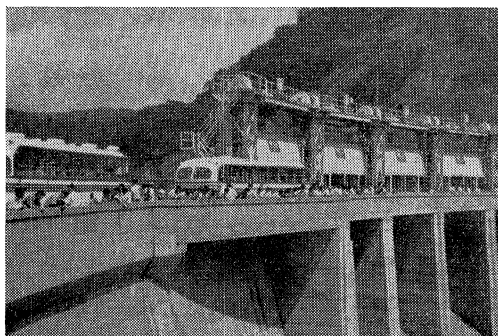
- 1) ぜひ知っておきたいセメントの知識
日本セメント技術協会 工博 田中太郎
- 2) コンクリート工学の最近の話題
東京大学教授 工博 国分正胤
- 3) コンクリート用骨材—砕石および軽量材を含む
東北大学助教授 工博 後藤幸正
- 4) コンクリート混和材料とその使用上の問題点
日本セメントKK 工博 山崎寛司

- 5) コンクリートの配合と品質管理
東京都立大学助教授 工博 村田二郎
- 6) ダム コンクリート 電力中央研究所 西沢紀昭
- 7) 舗装用コンクリートの配合とその問題点
建設省土木研究所 工博 伊東茂富
- 8) ソイル セメントとその問題点
建設省土木研究所 工博 竹下春見
- 9) 最近におけるプレストレスト コンクリート(施工上の問題点に関して) 国鉄構造物設計事務所 野口功
- 10) 最近のレデーミキスト コンクリートと使用上の問題点
塔城セメントKK 赤沢常雄
- 11) コンクリート製品(用途規格、製造、試験)
小野田セメントKK 工博 杉木六郎

実習 第3日(23日) 骨材関係の試験、配合の設計、コンクリート強度試験

見学 A班 国道13号線栗子トンネル B・C班 大倉ダム

大倉ダムを見学する一行



(2) 藤井会長を囲む懇談会(37.9.3, 仙台市 みうら)
出席者:本部側4名, 支部側 宮本, 樋浦, 三浦, 平井の各顧問, 中村, 長瀬, 矢崎の各常議員, 井部, 後藤, 岩崎, 後藤(幸)の各常議員, 佐々木幹事長, 藤原, 松本, 倉西, 戸谷, 幸, 塩谷の各幹事。

議事:1) 本部支部との緊密化。2) 事業の拡大。3) 特別会員に対するサービス。4) 関連学会との共催。

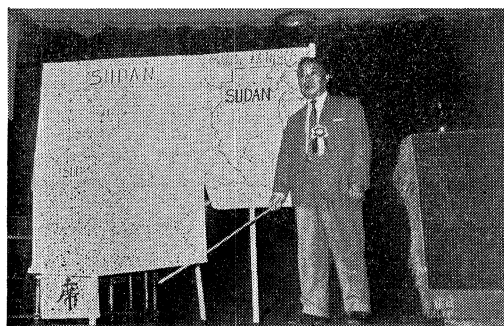
(3) 海外事情講演会(37.9.7, 盛岡市公園下教育会館)

講師と題目

- 1) ドミニカ共和国の実態について 岩手大学教授 小川博三
- 2) 東南アジアにおける建設事情 東北大学教授 河上房義
- 3) スーダン共和国の実態について
鉄道建設興業KK 戸谷信雄
- 4) 私の見たソビエトとシベリヤ開発計画
東北大学教授 原田千三

参加者:160名

講演風景



(4) 技術講座(37.9.11~12, 東北大学土木工科大講義室)

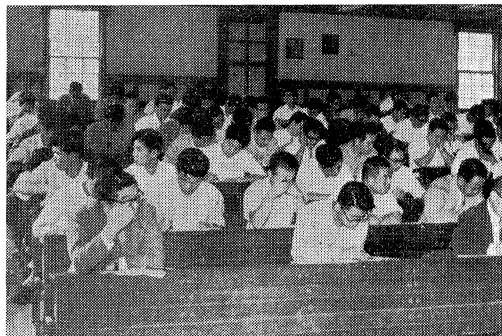
講師:東北大学教授 小貫義男

題目:技術講座(土木地質)

一般地質, 東北地方の地質の特殊性, ダムの地質, 岩石の鑑定 および土木地質の判定実例, トンネルの地質, 地すべり地盤沈下等と地質の関係, その他

受講料:無料 参加人員:135名

会場風景



(5) 東北支部長交代(37.9.15付)

新支部長 畑谷正實(東北地方建設局長)

前支部長 小西則良(前東北地方建設局長)

◎関西支部

(1) 事務局移転(37.9.14付)

関西支部事務局は9月14日付で次のとおり移転した。

大阪市天王寺区堀越町110番地

天王寺ステーションビル4階

社団法人 土木学会関西支部 電話 大阪(716)7881~9番
内線 335番

(2) 技術講座1号(37.9.20, 美陵町公民館)

講座名:航空写真測量, 講義終了後 日東航空航測所を見学

参加者:107名 参加費:150円

(3) 会員懇親会(事務局移転披露 37.10.1, 大阪都ホテル)

参加者:89名(うち招待関係66名) 参加費:500円

(4) 第5回幹事会(37.9.25, 土木学会関西支部事務局)出席者:

矢野支部長, 米谷幹事長, 石原, 赤尾, 岩崎, 三上, 宮田, 小笠原, 毛利, 小仲, 大平(代羽取)の各幹事

(5) 臨時幹事会(37.10.1, 土木学会関西支部事務局)出席者:

矢野支部長, 米谷幹事長, 赤尾, 石田, 石原, 岩崎, 大村(代西村), 小仲, 宮田, 毛利, 三上の各幹事

(6) 幹事異動

退任:近畿地方建設局企画室長 伊藤直行(四国地方建設局道路部長に転出)

委嘱:近畿地方建設局企画室長 三谷健

(7) 幹事増員

ピーシー橋梁KK代表取締役 新井敬造氏に幹事を委嘱した。

◎西部支部

(1) 講演会(37.9.15)

今回ウィーン工科大学教授 A. Grzywienski

氏が来日され, 九州方面来遊の機会に, 下記講演会を開催した。

講演者:ウィーン工科大学教授

A. Grzywienski

講演題目

- 1) 高速乱流における各種水門の操作

- 2) 大ダムの高圧水路におけるキャピテーションのない設計について
 3) 大ダムの崩壊によって生ずる洪水波 (スライド使用)
 場所: 九州大学工学部防音講義室 105 号室
 聴講者: 51 名

- (2) 第3回幹事会 (37.9.25) 出席者: 服部幹事長, ほか幹事7名。
 場所: 福岡市天神ビル学士会事務所
 議題: 1) 夏季講習会結果報告
 2) A. Grzywiński 教授講演会報告
 3) 土質工学会と共催にて講習会開催の件

編集後記

最近, 全国各地において, さかんに工業地帯造成が行なわれており, 国土総合開発計画や, 新産業都市建設計画などの一連の地域計画などの推進と相まって, 今後, 計画的にますます促進されていく傾向である。また, それにとまなう宅地造成の量と質が問題になってくる。このような時期を考えて, 今月より, だいたい6回にわたって「土地造成」講座を連載して行く予定である。御期待願いたい。

× × ×

従来, 一読者として学会誌を見てきたのが, 突然, 編集委員の重任を引受けて, 違った面から見るようになってみると, 今まで読みやすくなってきたなあ, となんとはなしに思っていたことでも, 前委員達がいろいろ苦心されている様子がわかってくる。

15000 名もいる会員の考えや意見の交換の場としての学会誌である以上, できるだけ親しみやすいものとすべきであるというのが理想であるが, いかにしたら親しみやすくすることがで

きるか, なかなかむずかしい問題である。

本を受取った時の感じのよさを出すためにも, 表紙のデザインをセンスのあるものとし, 内容の配列を考えたり, 読みやすくするために, 題名も副題を併用して, 感じを端的に表わそうとしたり, 内容も座談会または対談形式を用いたり, ロータリー, 豆知識などの小欄を作ったり, また, 範囲も土木のいろいろな分野にまんべんなく行きわたるよう配慮している。

しかし, 編集担当者の間で問題になるのは, このようにいろいろと苦心しているものの, 数多い会員諸氏の希望はどこにあるかということである。学会誌は会員のものであるから, お気づきの点があれば, 何でも結構ですから, どしどし編集部へ御意見をたまわれば幸いである。

前号で予告した佐藤昌之氏: 横浜市のステップエアレーションタンク的设计は, 都合によりくり越しますのでご了承下さい。また 12 月号は 1962 年の回顧と展望を特集する予定です。【新谷・記】

COASTAL ENGINEERING IN JAPAN, VOL. I (1958)	B 5 判 147 頁	実費 250 円 (〒 共)
COASTAL ENGINEERING IN JAPAN, VOL. II (1959)	B 5 判 122 頁	” 300 円 (”)
COASTAL ENGINEERING IN JAPAN, VOL. III (1960)	B 5 判 303 頁	” 500 円 (”)
COASTAL ENGINEERING IN JAPAN, VOL. IV (1961)	B 5 判 122 頁	” 700 円 (”)

会員入退会について (昭和 37.8.1~8.31)

1. 入 会	72 名 (正 61 学 8 特 1.D 2)	4. 死 亡	2 名 (正)
2. 復 活	8 名 (正)	5. 転 格	3 名 (正→学)
3. 退 会	35 名 (正)		

特別員の入退会

入 会	昭和 37.9.27	特 1・D	アサノコンクリート KK 浮間工場	東 京 都
”	9. 5	”	北海道開発コンサルタント KK	北 海 道

会員現在数 (昭和 37 年 9 月 30 日現在)

名 誉	正 員	学 生 員	賛 助	特 級	特 1・A	特 1・B	特 1・C	特 1・D	特 2	計	(増)
47	13 333	1 330	30	15	15	29	156	239	20	15 214	43

正 員	神 田 一 雄 君	鉄道建設興業 KK 大阪支店土木課長	昭和 36. 7. 8 死去	54 才
”	藤 岡 正 樹 君	岡崎市土木課	” 37. 9. 5 ”	38 才

昭和 37 年 11 月 10 日印刷
 印刷者 大沼正吉
 発行者 末森猛雄
 定価 200 円 (送料 20 円)

昭和 37 年 11 月 15 日発行
 印刷所 株式会社技報堂
 発行所 社団法人 土木学会
 振替: 東京 16828 番

土木学会誌 第 47 卷 第 11 号
 東京都港区赤坂溜池 5 番地
 東京都新宿区四谷一丁目
 電話 (351) 5130・5138・5139 番